

第2回総合計画審議会で各委員から出された意見

(教育福祉部会関係)

(小磯会長)

・地域創造研究センターでは、「文化創造都市への挑戦」として、文化創造都市プロジェクトを進めている。文化創造都市の「文化」は大変幅の広い概念。文化・芸術よりも幅広い、観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育なども含む広い意味合い。これからの都市政策を進めていくには、改めて足元にある幅広い地域資源を文化資源として、そこに価値をつけて、地域の力を高めていくことが必要。そこで大事なものは、恵庭の人々が足元にある資源を文化資源をしっかりと再認識すること。

【基本目標4】

- ・どんどん高齢化が進むので、対応できる施策を
- ・一人暮らしの高齢者がどんどん増えていく中で、それに対しての支援がもっと具体的になればいい
- ・社会支援の点では、障がい者の方々の住む場所がない、支援を受けられないというところで、札幌や道外に行って、治療や支援を受けるところで困っている方がすごく多い。自立支援協議会などしっかりされているので、それもまちの魅力としてうたえると。
- ・私は住みやすいまちとは、生きやすいまちだと思う。
- ・医療に関して、恵庭市にはお産ができる病院がないため、子どものことについて足りない。
- ・救急に関しても3次医療がなく、他市の大きな病院に回すことになっており、医療の体制ももっと進むべきと思っています。

【基本目標7】

- ・課題となっているのは不登校が多いということ。子どもの選択肢の中に、社会と繋がりを持つための機会や施設があるということが、将来大人になったときに社会の中で何とか生きていけるのではないかと思います、そのような繋がりを持つところを増やして。
- ・特別支援学級に在籍する子どもたちがすごく増えています。これからも手厚く支援をお願いしたい。小中高大が揃っていますので、恵庭で育った子どもたちが中学校・高校にそして大学に進学していく流れができればいい。
- ・色々なところに文化・芸術の発表に行くときに、福祉とは違う支援が欲しい。
- ・文化・芸術活動という言葉が堅く聞こえてしまうので、幼稚園や小学校の小さいときから自然に触れ合えるようになればいい。
- ・認定こども園は園の中で子どもを安全に保育すればいいというだけの施設ではなく、地域社会に出て行って様々な活動を行うことが要求されている施設。保育の位置づけが明確でない。
- ・いかに自然増を自力で増やしていくのか。若者や女性に対する施策、支援を大胆にやってはどうか。これから将来を考えると、先ほど保育施設のお話もありましたが、女性を大事にすることも必要だと思う。
- ・スクールカウンセラーはカウンセリングが仕事であるため、小学校と地域を繋ぐためのスクールソーシャルワーカーを配置する意味があると考えている。